

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660040 _ 001

【1.基本情報】

事業名	鵜飼観覧船事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	鵜飼観覧船事務所		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	昭和	2	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市観覧船に関する条例

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	全国から観光客を誘客し、鵜飼観覧船に乗船してもらうことにより観光産業の活性化及び経済波及効果を上げる。					
内容 (手段・手法など)	鵜飼観覧船事業を行い、全国から観光客を誘客する。 鵜飼は、毎年5月11日から10月15日まで鵜飼休みの日を除き毎夜行われ、鵜飼観覧船を運航する。					
事業の 対象	何を	鵜飼観覧				
	誰に	観光客及び市民				
	どのくらい	5月11日～10月15日(鵜飼休みの日及び増水による中止の日を除く)				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	コロナ禍ではあるが、感染防止対策や乗船定員制限を設けて、5月11日の鵜飼開きから鵜飼観覧船の運航を開始した。また、高級観覧船3隻の運航を開始した。					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	55,218	1,699	53,909	1,669	49,608	1,560
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	1,786	372	2,453	511	2,390	478
計(A)	57,003	2,071	56,362	2,180	51,998	2,038

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		300,079	272,454	275,939
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	報償費	171,773	104,684	110,842
	船員報酬(賃金)	77,132	80,631	128,313
	委託料	27,827	58,113	40,236
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		5,072	5,072	5,072
計(D)=B+C		305,151	277,526	281,011

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	362,154	333,888	333,009

【4.収入】

収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	7,497	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	49,049	44,928	184,715
その他	3,513	3,062	1,565
計(F)	52,562	55,487	186,280

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	309,592	278,401	146,729

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	観光客及び市民	観光客及び市民	観光客及び市民
受益者数	15,310	13,910	52,889
受益者負担額(千円)	49,049	45,222	184,715
受益者負担率(%)	13.5%	13.5%	55.5%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	20,222	20,014	2,774

【7.指標】

アウトプット評価(資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	鵜飼観覧船乗船者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	115,000	75,000	75,000	
実績値	15,310	13,910	52,889	

アウトカム評価(アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	鵜飼観覧船乗船者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	115,000	75,000	75,000	
実績値	15,310	13,910	52,889	
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	ぎふ長良川の鵜飼は日本の宝であり世界に誇るべき伝統文化である。この事業を通じて、市民にとってかけがえのない文化を守り続けてきている。 収益事業であるが、伝統文化継承という点から、民間が実施することは慎重な検討が必要となる。 類似の事業なし。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	「岐阜市鵜飼観覧船事業のあり方検討委員会(諮問機関)」の答申において、雇用も含め、約20億円の経済波及効果があるとされ、未来永劫継続していくべきものとされている。 伝統文化継承に配慮しながら、多様な運営主体について検討する必要がある。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	年間約10万人が観覧する本市の基幹的な観光資源であり、雇用、宿泊などの消費への波及効果は大きい。また、鵜飼漁の技術は、国重要無形民俗文化財に指定されるなど、世界遺産登録に向けても観覧船事業の重要性は高い。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	観光客や地域観光事業者など鵜飼観覧船事業における受益者負担のあり方を検討する必要がある。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	改善	鵜匠、船頭の後継者育成なども含め、鵜飼観覧船事業を持続可能な形態へシフトすることが不可欠である。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660040 _ 002

【1.基本情報】

事業名	船員互助会助成金					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	鵜飼観覧船事務所		
実施方法	補助等	補助等の種類	その他補助金	実施主体	岐阜市鵜飼観覧船船員互助会	
開始・終了年度	平成	9	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市鵜飼観覧船船員互助会助成金交付要綱

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	船員福利厚生事業の実施					
内容 (手段・手法など)	船員互助会に対して助成を行った。					
事業の 対象	何を	助成金				
	誰に	岐阜市鵜飼観覧船船員互助会				
	どのくらい	船員互助会の令和4年度会費の4分の1を助成。ただし岐阜市予算額以内とする。(25万円)				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	65	2	65	2	64	2
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	65	2	65	2	64	2

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		83	70	98
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	補助金	83	70	98
	-	0	0	0
	-	0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		83	70	98

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	148	135	162

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	148	135	162

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	船員互助会会員	船員互助会会員	船員互助会会員
受益者数	69	48	79
受益者負担額(千円)	333	282	515
受益者負担率(%)	225.0%	209.5%	318.7%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	2,145	2,804	2,046

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	助成金額		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	225	225	225	
実績値	83	70	98	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	互助会会員数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	90	90	90	
実績値	69	48	79	
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	地方公務員法第42条の規定に基づき実施しており必要である。 岐阜市鵜飼観覧船船員は地方公務員法第22条第5項の規定に基づき市で雇用しており市が助成を行うもの。令和2年度からは会計年度任用職員となった。 類似の事業なし。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか(広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	船員互助会の会費の4分の1としており、岐阜市互助会における会費は、給料月額1,000分の4、助成金が給料月額1,000分の1であり、会費に対して助成金の割合は4分の1であり、妥当である。 船員互助会が最も船員のことを把握しており、ここに助成を行うことが効率的である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込みか ※【2】【7】から	高	岐阜市鵜飼観覧船船員互助会助成金事業報告書において各種事業が実施されており有効であった。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	船員互助会の会費の4分の1としており、岐阜市互助会における会費は、給料月額1,000分の4、助成金が給料月額1,000分の1であり、会費に対して助成金の割合は4分の1であり、妥当である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	船員不足の状況下で、年間10万人の乗船客が見込まれる観覧船事業を支えるために市が助成しているもの。今後も助成を行っていく。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号	0660040	__ 003
----	---------	--------

【1.基本情報】

事業名	観覧船建造事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	鵜飼観覧船事務所		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	昭和	2	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	古く傷みの激しい船を廃船し、ニーズに合った船に切り替えて安全運航に努める。また、船のイメージアップを図り、多くの観光客の誘客を図る。					
内容 (手段・手法など)	安全かつ質の高い鵜飼観覧を実施するため、老朽化した船の廃船及び観覧船乗船客のニーズに合った新造船の建造を計画的に行う。 観覧船の建造過程を自由に見学できるようにし、まちなか歩きの推進に寄与する。 鵜飼観覧船造船技術の継承を行う。					
事業の 対象	何を	鵜飼観覧船				
	誰に	観光客及び市民				
	どのくらい	年1隻				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	15人乗り観覧船「吉祥丸」1隻を建造(R5年5月進水)					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	163	5	162	5	159	5
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	163	5	162	5	159	5

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)		14,878	9,304	9,304
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	原材料	6,000	5,796	5,796
	賃金	8,878	3,508	3,508
	-	0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		0	0	0
計(D)=B+C		14,878	9,304	9,304

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	15,041	9,466	9,463

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	15,041	9,466	9,463

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	観光客及び市民	観光客及び市民	観光客及び市民
受益者数	15,310	13,910	52,889
受益者負担額(千円)	49,049	45,222	184,715
受益者負担率(%)	326.1%	477.8%	1952.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	982	680	179

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	新造船の建造		単位	隻
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	1	1	1	1
実績値	1	1	1	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	新造船の建造		単位	隻
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	1	1	1	1
実績値	1	1	1	1
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	鵜飼事業に必要不可欠な観覧船建造事業において、安定的かつ継続して観覧船の建造を行うことは必要である。 本市の中心的な観光資源である鵜飼と一体であり、技術者を保護し、後継者を育成しながら、貴重な和船の製造技術を継承する必要があり市が実施すべきである。過去から本市の事業であり、国や県が実施することは、困難と思われる。 類似の事業なし。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	仕入れた原材料から建造することで低廉に建造している。 本市の中心的な観光資源である鵜飼と一体であり、技術者を保護し、後継者を育成しながら、貴重な和船の製造技術を継承する必要があり市が実施すべきである。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	年度中に1隻の船が完成した。造船所の見学者も3,091人あり、滞在時間の延長にも寄与している。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	鵜飼事業に必要不可欠な観覧船建造事業において、安定的かつ継続して観覧船の建造を行うことは必要であり、適正である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	鵜飼事業に必要不可欠な観覧船建造事業において、安定的かつ継続して観覧船の建造を行うことは今後も必要である。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660040 _ 004

【1.基本情報】

事業名	ウミウ捕獲技術保存協議会				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	鵜飼観覧船事務所		
実施方法	補助等	補助等の種類	加入団体負担金	実施主体	ウミウ捕獲技術保存協議会
開始・終了年度	平成 16 年度 ~	年度	根拠法令・関連計画	—	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	(H15年の鵜捕り場の崩落を受け、岐阜市長の提案によりH16年に設立され現在に至る。) 鵜飼の伝統文化継承に必要となるウミウの安定供給に貢献すること。 岐阜市の宝である「鵜飼」をウミウの安定供給により支えることで観光に寄与すること。	
内容 (手段・手法など)	・ウミウ捕獲技術保存に関する事及びウミウの安定供給に関する事。 ・鵜飼文化振興のため環境整備に関する事。 ・ウミウの捕獲から鵜飼実施までに関する情報交換及び課題の協議。 ・ウミウ捕獲場に関する事。	
事業の 対象	何を	負担金(加入団体負担金)
	誰に	ウミウ捕獲技術保存協議会
	どのくらい	事業規模は約440万円で日上市(1/2)と有田市を除く11鵜飼開催地(1/2)が拠出する。負担額は、均等割額(10万円)と羽数割(1/4)の110万円に過去15年間の鵜の供給割合を乗じて算出した額)で、R4年度は358,000円。
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	325	10	323	10	318	10
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	325	10	323	10	318	10

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		365	358	358
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	負担金	365	358	358
	-	0	0	0
	-	0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		365	358	358

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	690	681	676

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	690	681	676

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	観光客及び市民	観光客及び市民	観光客及び市民
受益者数	15,310	13,910	52,889
受益者負担額(千円)	49,049	45,222	184,715
受益者負担率(%)	7108.6%	6640.5%	27324.7%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	45	49	13

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	ウミウ捕獲数(岐阜市分)		単位	羽
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	11	11	11	13
実績値	11	11	11	13

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	ウミウ捕獲数(岐阜市分)		単位	羽
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	11	11	11	13
実績値	11	11	11	13
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	日立市にあるウミウ捕獲場は、平成23年の東日本大震災で捕獲場に亀裂が入り、崩落の可能性もあるなど、今後のウミウの安定供給のためにも捕獲場の維持は欠かせない。また、ベテランの鶴捕り師が引退するなど、後継者育成も課題となっている。協議会を通し、捕獲場の維持及び後継者の育成に寄与している。 鶴飼観覧船事業の主体であり、市域の観光振興を図る市が行う事業である。 類似の事業なし。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	負担金は協議会の平成4年からの累計捕獲数に単価を乗じる形で算出され、毎年負担金が増加していた。このため、平成22年度から算出期間に期限(過去15年間の捕獲総数)を設けることを岐阜市が提案し、増加することに対し歯止めを掛けている。 この協議会のみがウミウ捕獲対策の検討を行っている。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	毎年、ウミウを鶴匠に供給(令和2年度11羽、令和3年度11羽、令和4年度13羽) 毎年、約1回捕獲場の補修のほか、通年管理
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	ウミウの安定供給のため、各開催地の負担により実施している。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	岐阜市の宝である「鶴飼」をウミウの安定供給により支えており、今後も必要である。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0660040 _ 005

【1.基本情報】

事業名	長良川遊覧船事業					
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部		担当課名	鵜飼観覧船事務所		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	29	年度～	年度	根拠法令・関連計画	岐阜市観覧船に関する条例

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	岐阜市に來られた観光客に本市の遊覧船をPRするとともに、国の重要文化的景観に選定された景色を船上から楽しんでいただくことを目的に遊覧船を運航する。					
内容 (手段・手法など)	鵜飼観覧船乗り場を発着とする遊覧船をGW期間・花見期間に運航する。運航時間は10:00～16:00とし、1時間に1便、1日6便を運航する(最終便15:00出航)。遊覧時間は40分～45分。					
事業の 対象	何を	遊覧船				
	誰に	観光客及び市民				
	どのくらい	GW期間(10日間を予定)、花見期間(5日間を予定)				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	本格運航の開始					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	130	4	129	4	127	4
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	130	4	129	4	127	4

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		162	330	728
直接事業費の主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	賃金	159	311	697
	報償費	0	0	0
	印刷製本費	0	0	0
減価償却費【施設管理】(C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		162	330	728

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	292	459	855

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	1,269
その他	191	293	0
計(F)	191	293	1,269

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	101	166	-414

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	観光客及び市民	観光客及び市民	観光客及び市民
受益者数	442	432	1,424
受益者負担額(千円)	191	293	1,269
受益者負担率(%)	65.4%	63.8%	148.4%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	229	385	-291

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)

活動指標名	開催日数		単位	日
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	16	17	15	
実績値	3	6	14	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	遊覧船乗船者数		単位	人
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	2,304	1,728	1,425	
実績値	442	432	1,424	
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	開催日においては、多数の方に利用していただき、本市の観覧船をPRすることが出来た。 本体部分の鵜飼事業を市が行っており、この事業のみを民間が実施することは難しい。 類似の事業なし。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	開催日には、幼児も含めて令和4年度432人の参加があった。多数の乗船者があり効果的である。 長良川周遊航路における定期航路事業の許可を市として受けており、観覧船のPRも十分行っていくことが出来ており直営が適当である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	中	開催日においては、多数の方に利用していただき、本市の観覧船をPRすることが出来た。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	受益者である乗船者に必要な負担を求めている。観光振興の観点で他市においても自治体の負担により実施している。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	改善	本市の遊覧船を十分PRすることが出来て、景色を船上から楽しんでいただくことが出来た。目標を十分達成出来ている。 今後も事業全体の収支改善を図る。